

びん牛乳をみんなで飲もう!

～産直びん牛乳誕生11周年～

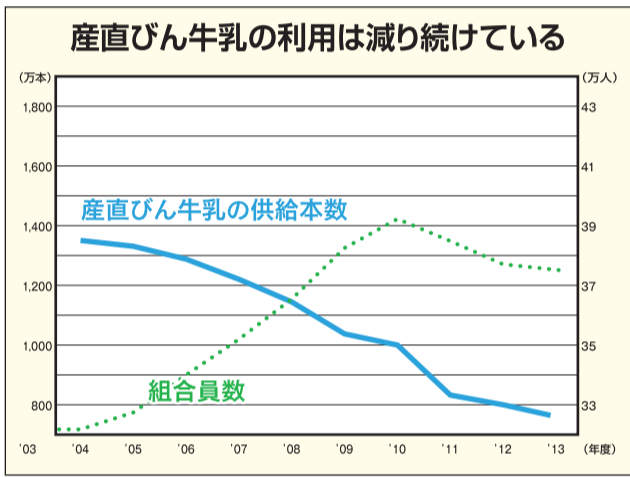
カタログGREEN35号(11月24日配達分)より産直びん牛乳を再度値上げします

雪印メグミルク(株)と協議した結果、びん牛乳1本当たり「11～12円」の値上げとなります。(価格の詳細はカタログ35号で案内します)



「おいしくて安心して飲める牛乳を子どもたちに飲ませたい」。グリーンコープの組合員であるお母さんたちの思いを出発点に、1980年に牛乳の見直しが始まり、1985年パスチャライズ牛乳が実現しました。そして2003年には、念願のびん牛乳が完成しました。産直びん牛乳は、組合員と生産者、メーカーの願いが一つのカタチになった、グリーンコープの食べもの運動の原点なのです。

私たちの思いをつないでいきたい



2013年は、びん牛乳誕生10周年を迎え、これからも飲み続け、守っていくことを再認識した節目の年でもありました。各単協では利用普及に向け積極的な取り組みも行われましたが、利用の減少に歯止めをかけることはできませんでした。このままでは、製造中止にまで追い込まれる危機的な状況となったことから、2014年3月、生産者が安心してびん牛乳を作り続けていけるように、値上げしました。2014年は、仲間を増やし利用を高める取り組みがすすめられ、組合員は増えていますが、びん牛乳に関しては、利用本数の減少が続いています。採算ラインを割る状況が続く中、びん牛乳製造を担う雪印メグミルク(株)より値上げを打診され、今後について協議を行い、再度値上げに踏み切るようになりました。

10月28日には、これからもびん牛乳を守っていくために、組合員、生産者、メーカーが一堂に会した「びん牛乳利用拡大のための集会」が開催されました。次号で内容を報告します。

飲み続けていくためには、みんなの利用が不可欠。2013年は、びん牛乳誕生10周年を迎え、これからも飲み続け、守っていくことを再認識した節目の年でもありました。各単協では利用普及に向け積極的な取り組みも行われましたが、利用の減少に歯止めをかけることはできませんでした。このままでは、製造中止にまで追い込まれる危機的な状況となったことから、2014年3月、生産者が安心してびん牛乳を作り続けていけるように、値上げしました。2014年は、仲間を増やし利用を高める取り組みがすすめられ、組合員は増えていますが、びん牛乳に関しては、利用本数の減少が続いています。採算ラインを割る状況が続く中、びん牛乳製造を担う雪印メグミルク(株)より値上げを打診され、今後について協議を行い、再度値上げに踏み切るようになりました。

本物の牛乳について学ぶためにヨーロッパを視察し開発に携わった組合員、乳牛のエサをnon-GMO(遺伝子組み換えでない作物)に切り替えることの大変さを乗り越えた生産者、「生きている牛乳」に引き合い最善の技術を駆使したメーカー、それぞれの思いを紹介します。

雪印メグミルク(株) 福岡工場

工場長 市川寛道さん

「non-GMO」「パスチャライズ殺菌」「リユースびん」。これらを全て実現するには、酪農家の努力によってできた良質の原乳と、私たちの高度な品質管理・製造技術が必要です。グリーンコープのびん牛乳は、国内で唯一、貴重で高品質な牛乳なのです。

この品質とこだわりでこの価格!通常はありえず驚くばかりです。ぜひ、たくさん飲んでください。

non-GMO牛乳生産者会

委員長 永田浩徳さん

いつも、non-GMO牛乳をご愛顧いただき誠にありがとうございます。牛たちも私たちも元気にしています。毎日、牛たちはモリモリ餌を食べ、たくさん牛乳を出してくれています。この牛乳は丹精こめた牛乳です。より自然に近い牛乳ですので安心して飲んでください。

ノンホモパスチャライズ牛乳開発に携わった組合員の思い

グリーンコープ生協くまもと組合員 篠原晴美さん

30数年前、生菌数の多い原乳では超高温殺菌が必要でした。「良質な原乳がほしい」と、生産者と一緒に、パスチャライズ殺菌が可能な良質な原乳にしていくことから取りかかりました。また、生産者との交流を重ねながら、生菌数を減らすため乳房を拭いてもらうタオルを届ける取り組みも始めました。生産者も一生懸命に伝えてくださり、乳質も少しずつ改善されてきました。72℃15秒殺菌に成功し、さらに試行錯誤の末、1987年、圧力をかけて牛乳の成分を均質化することなく、より生乳に近い、ノンホモパスチャライズ牛乳が誕生したのです。

共生の時代

みどりの地球をみどりのままで

2014 11月

発行：グリーンコープ共同体育会
編集：共生の時代・編集部
〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
ヒューリック博多ビル3階
TEL 092 (481) 7923
FAX 092 (481) 7876
http://www.greencoop.or.jp/

Contents

「フクシマ」という表現について 共同体育会での検討報告 2

ひょうご発 10周年記念講演会 3

2014年度 地域運動交流集会 4・5

2014年度 子育て応援学習会 子どもに何を伝えますか 一食から子育てを考える 6

グリーンコープの輪・和・環 グリーンコープ生協ふくおか 樋口 茂敏さん 7

別紙にて、「放射能汚染と向きあう(放射能測定室より)」を掲載

チェック!

11月も、各地でグリーンコープのおまつりが開催されます。元気くんも参加するかも!ぜひ遊びに来てね。ホームページの元気くんオフィシャルサイトも要チェック!歌に踊りにみんなで盛り上げよう!

「フクシマ」という表現に関する組合員からの意見について共同体理事会で検討しました

① 組合員より届けられた意見

- 自分は、原発には反対の立場で、福島原発事故のこと、放射能汚染に苦しんでいる人たちのことにも心を痛めてきた。
- 地名や人名にはそれぞれ人格があると思っている。だから、漢字の場合は正確に漢字というように、その固有名詞を大切に、尊重すべきだと思う。
- 書き手の思いがどうだろうと、読み手の受け取り方も立場もおかれた状況もさまざまなので、そのあたりにもイメージを働かせて、使う言葉を選ぶべきだと思う。
- 被災された方、福島県に住んでいる方に対して失礼だと思うし、私も憤りを感じている。
- 記事にするのであれば、もう少し丁寧に表現して、伝えたい内容を説明すべきではないかと思う。
- なぜ、このような表現をグリーンコープとして使ったのか、記事を書いた方の意図などの見解を聞きたい。
- 今後、この表現は慎んでほしい。

② “フクシマに学び フクシマを忘れない”

東京電力福島第一原発事故から3年経ったいまなお放射能汚染という厳しい現実の中にいます。

また、事故を起こした原発は一旦「廃炉」という決定がされました。



現在の福島第一原発

しかし、毎日溢れ出る汚染水との不毛な闘い、作業員不足など焦眉の問題が山積している様子が伝えられています。

「フクシマ」が教えてくれた大事なこと、それが「電気を自分たちで作ると決めたこと」。フクシマの現状に目を向けながら、私たちの思いを実現させていきましょう。

—「グリーンコープ市民発電所物語VOL.4」より—

グリーンコープがすすめる自然エネルギーによる発電所づくりへの出資を組合員に呼びかけた「グリーンコープ市民発電所物語VOL.4」で表現していた「フクシマ」という表記(②)について、6月11日にグリーンコープ生協ふくおかの組合員より意見(①)が届けられました。

7月31日の共同体臨時理事会にて、意見と執筆者の意図の説明(③)について意見交換し、「フクシマ」という表現について、次のように取り扱うことを確認しました。

- 一) 「フクシマ」という表現に関し、頂戴した組合員さんからのご意見には、理解すべき深い意味がある。私たちは、こうしたご意見を尊重すべきであると考えます。
- 二) と同時に、執筆者が「フクシマ」という表現を選択した判断の中にも、理解すべき深い意味がある。私たちは、こうした判断を尊重すべきであると考えます。
- 三) 以上を前提に、表現の問題という意味において、「福島」「フクシマ」「ふくしま」のいずれを選択するかは表現の自由に属する問題であって、かつ、表現の自由の範囲内にある問題であると考えます。したがって、グリーンコープはそのいずれの表現も、その使用を禁じない。

意見交換の中で、言葉を大切にし、表現者の思いを尊重してきたグリーンコープとして、この検討を組合員全員で共有するために、本紙に掲載することを確認しました。受けて、検討の経過を掲載します。

③ 執筆者の意図(抜粋)

○「フクシマ」で、具体的に私がイメージするのは、東京電力福島第一原発事故の収束状況はもちろん、原発事故の影響で故郷を追われ苦しんでいる人たちがいるという事実、そして放射能で汚染された地域で生きていかざるを得ない人々がいる一方、小さな子を放射能被害から守るために家族離散してでも福島県外に避難している人々がいるということ、生きるために福島原発で働かざるを得ない人がいるということ、先の見えない汚染水処理に翻弄されながら福島第一原発の現場で許容放射線量の限界を超えて働く原発労働者の問題が置き去りにされているということ、さらに時間を遊んでまで原発を誘致し利益を享受してきたことを責められる福島…などなど、今回の事故によって、東京電力福島原発事故にまつわるさまざまな事象が浮き彫りになってきていて、そういったこと全てが象徴された言葉ではないかと思っています。

○「フクシマ」という言葉は、福島に住んでいる人々を差別しているとか、福島の風評被害を助長させるネガティブな言葉であるなど、さまざまな論調が展開されています。一方で「フクシマ」という言葉を積極的に使って福島の再生を命がけで支援している人たちがいることも事実です。…そういった様子から、それぞれがそれぞれに自らの思いと意味を込めて「フクシマ」という言葉を使っています。

日本語が、とくに漢字が表意文字であることとか、地名を漢字であらわされると、その地の自然や人々にまで思いが及ぶというのには私も感じます。今「福島」と言えば濃い緑と豊かな農産物を思い浮かべます。しかし福島県全体はそうではありません。現に放射能の影響で福島に住みづらくて、県外に出ている方も多くおられます。この二つは別箇ではなく、どちらも真実です。

福島県や福島市を指すだけの意味合いではないことから、今回の表記は妥当だと思えます。ただ、市民発電所物語の中で「フクシマ」が一箇所のコーナーに4回使われており、強調された感はあると感じました。また、使用された写真が福島第一原発だったことも、「フ

クシマ」「フクイチ」のように感じられたかもしれません。そこは気がなりました。原発事故によって平穏な生活が破壊されてしまった人々が数多くおられること、そして、その方々の状況はさまざまであり、「ひとくくり」にできないもの、してはいけないもの、してはいけないものとも思えます。「フクシマ」という表現に触れた人の中には、原発事故、その後の多くの人々の苦しみをすべて「ひとくくり」にして表現していると感じる人もいて、と改めて気づかされました。一方、執筆者の説明にも共感できます。決して、原発事故と人々のさまざまな苦しみや苦しんでいるわけではない。むしろ、「起こった(起こっている)悲劇に無関心ではないけ

なことを考えます。そのことをきちんと押さえた上で「フクシマ」という表現を使っていくということを確認させていただきます。私も今回のことで「フクシマ」という言葉の重みを再確認することができました。「ひとつの言葉」だけを取り出して、良い、悪いと判断するのはとても難しいです。しかし、違和感を持つ人、悲しんでいる人、疑問に思う人がいらつしやるのも事実です。そうであれば、私は「福島(県)」は「福島」「原発事故」は「東京電力福島第一原子力発電所事故」と書くのが良いと考えます。

7月31日、共同体臨時理事会での意見交換の一部抜粋

忘れてはいけない」という気持ちを、限られた紙面で伝えるために選んだ言葉だと思えます。

「言葉で表現し伝えることの難しさを改めて実感しました。グリーンコープだからそのようなあつてほしくないという思いを伝えてもらったのだと思います。私自身も考えることのできる機会を持つことができた。この間、私たちの思いと取り組みについて、福島の方々に寄り添って進めてきたからこそその表現であったことを丁寧に伝え、今回の意見を報告し、これからも今までのように思いを添って進めていくことを発信できれば良いと思います。

「言葉の大切さ」「言葉の素晴らしさ」を実感しています。それと共に「言葉を大切に」「言葉を磨き」「言葉を鍛えたい」と思うようになりました。その上で、今回のことはまた新たに「言葉」について考える良い機会を与えていただいたと思っています。私が思ったことはそこにある「読み手の思い」と「書き手の思い」できればどちらも大切にしたいと言っています。

しかし、その二つが今回のように違っている場合、その表現、ことば選びがとつてもひどくない場合は「発信する」という行動が「書く」ということにつながるという「発信する」人の思いを大切にしたいなと思えます。

ひょうご設立10周年記念講演会

「壊れかけた地球、そして日本」

明日の日本と子どもたちのために

2015年に設立10周年を迎えるひょうごは、新しい仲間と出会いグリーンコープを知ってもらうチャンスにしようと、様々な記念行事の検討をしています。また、一人でも多くの組合員と一緒に10周年を盛り上げたいと、記念行事運営費の協力を呼びかけたところ、たくさんのカンパが集まりました。

その思いに応える最初の行事として、9月24日、秋山豊寛さんを講師に脱原発の講演会を開催しました。組合員など約100人が参加し、福島に住む子どもたちに思いを馳せ、私たち大人が脱原発に向けて行動していかなければとの思いを新たにす講演会となりました。

要旨を紹介します。

みんな同じ地球号の仲間

1990年、旧ソ連のソユーズ宇宙船に搭乗し、8分50秒で地上200kmに到達、約90分で地球を1周するスピードで地球を回りました。地上200kmから見えた弧を描いた地球の緑は、コバルトブルーから始まる青のグラデーションがとてもきれいでした。



講師 秋山豊寛さん

プロフィール

1942年6月東京生まれ。TBSの記者だった1990年、日本人初の宇宙飛行士となる。1995年退社し、福島県で農業を始める。東京電力福島第一原子力発電所の事故で避難民となる。現在、京都在住。京都造形芸術大学芸術学部教授

宇宙から見ると、流れ星が金色のメダカのように、走っていきます。そのうち地平線が一瞬真っ赤に染まりました。地球の夜明けです。その瞬間とてもきれいな音が聞こえたような気がしました。色と音が影響しあって聞こえない音が聞こえるという不思議な体験でした。「私たちの生命は、全体として一つの生命。生命は全部つながっている。地球は生命のかたまりなんだ」。それが、地上400kmを飛行する宇宙ステーションから見た印象です。この体験を通して、生命を大事にすることを自分でじっくり考えたい。そして、同じ価値観をもっている人々と理解を深めていくことが、次の

ミッションだと考えました。

放射性物質が降り注ぐ

山奥で百姓をやりながらじっくり世の中を見ていたい、1995年から福島県で原木椎茸の栽培や有機農業などをしていました。ところが、東京電力福島第一原子力発電所事故で16年間築いてきた生活を捨て、避難を余儀なくされました。放出された放射性物質は、椎茸や大地に降り注ぎ、地表を汚染しました。福島は椎茸が多く、



熱心に耳を傾ける参加者

椎茸のホダ木や炭の生産が多いところでしたが、もう出荷できないでしょう。こういう世の中をつくるために50年間働いてきたのかと、慄然たる気持ちでいます。

真実に向き合うことを忘れてはいけない

今心配なのは、放射性物質が人々に、特に子どもたちに与える影響です。一旦放射性物質が環境に放出されると、あらゆるところに影響が出てきます。時間を追って確実に顕在化していくでしょう。政府は放射性物質が子どもたちに与える影響が出ていないかのように言っていますが、私は信用していません。

福島のお母さん方は悩んでいます。自分の判断が子どもの未来に影響するからです。子どもたちを、きれいな空気のところまで育てたい遊ばせたいと思って避難することも、勇気がいる状況なのです。日本には、普通の人々が1年間に放射線量1ミリシーベルト



ホットスポットという場所がたくさんあります。そういう不安と隣り合わせで生活をしている子どもたちや女性たちがいます。原発事故は進行中なのです。

今、考え行動するとき

ここ神戸市に近い大飯、原発や四国の伊方原発、九州の川内原発が再稼働したとき、私たちの生活はどうなるのでしょうか。福島第一原子力発電所の事故で放出された放射性物質が、福島県だけでなく、茨城県、群馬県、埼玉県、千葉県へどんな影響を与えたのか心配されています。しかし、福島県以外での実態調査はされていません。2014年5月、福井県の大飯原発の差し止め訴訟では、250km圏内の人々は、その原発の立地について発言する権利がある」という主旨の判決が出ました。私はもっと広いと思っていますが、原発事故が起きると、少なくとも250km圏内の人たちに

ト以上の被曝をしてはいけないし、させてもいけないという法律がありません。それは、放射線被曝量の基準が5ミリシーベルトだった1980年代、放射線を管理する人たちの間に、白血病など明らかに放射線によると考えられる病気が増えたため定められた法律です。にも関わらず、2011年に政府は、福島県内の学校の校舎・校庭等の利用判断における暫定的考え方として20ミリシーベルトとしました。事故後3年たち、その人々が住んでいるところでは、今も放射線量が基準値を上回る

重大な被害が及ぶ恐れがあるということです。現在政府は、「事故は起こらない」とは言っていない。万一の場合、ベントと言って放射性物質を含む気体を放出することで炉を守ることを前提に、原発を稼働させようとしています。

マスメディアの報道内容が、いつも真実だとは限らないし、その情報だけでは不十分です。報道されていないことを、記事にして知らせようとしているミニコミ紙などもあります。必要な情報を選び、その真偽を確かめる眼を磨いていくことが求められています。

私たちは便利な生活を維持する暮らしを続けてきました。でも本当に必要なもの、大切なものは何なのかという「気づき」が大事な時代です。だからこそ、私たち大人が子どもたちの未来のために、どういう行動をしているのか、問われているのです。



グリーンコープ生協みやざき 理事長 永野 清美

ゴシゴシ、ジャバジャバ、毎朝トイレの掃除をしているのは、我が家の旦那様である。毎日欠かさずしたいものだ。お風呂もたまにしてくれる。この前は、洗面所に髪の毛が詰まって水通りが悪くなっていたので、なんとパイプごと外して洗ったらしい。ドロドロとした汚泥を捨てたら、水通りが良くなった。そしたら、たまたまだと思うが、主人のぎっくり腰が治ったらしい!偶然だと思うが不思議な感じもした。私はというと、掃除は得意な方ではない。毎日とはいかないが、家の床を拭きあげると気持ちいい。たまに使うミシンも油を差して掃除をすると、たちまちミシンの調子が良くなる。やはり掃除は、物を大切にいたわる事。すなわち心を磨く事かもしれない。

未来を築く 一歩運動



グリーンコープの各地域で活躍する組合員が集い、その活動や事業について報告・発表する「グリーンコープ地域運動交流集会」は、今年で10回目を迎えました。10月8日、会場の福岡国際会議場には、組合員、職員、ワーカーズ（労働協同組合）、来賓（グリーンクラブなど）総勢819人が一堂に会しました。各地域の組合員とワーカーズが出会い、食への運動、地域福祉をはじめ、多様に広がるグリーンコープ運動を共有、実感する場となりました。

※グリーンコープ納入業者の会

ワーカーズからの報告



グリーンコープの福祉サービスを紹介する楽しい寸劇

グリーンコープの福祉関係ワーカーズは、組合員にとどまらず、地域の人々の暮らしの「今」と「将来」を支え、高齢者、障がい者、お母さんと子どもたちが安心して暮らせる街づくりをめざして、日々奮闘している。

ひろしまからかしままで地域福祉を担うワーカーズは38団体、約2,250人が元気に働いている。「ふくし情報でんわ」「ケアマネジャー」「訪問介護」「福祉用品店舗」「デイサービス」「食事（配食）サービス」「グループホーム」「有料老人ホーム」「小規模多機能型居宅介護」「ケアホーム」「子育てサポート」などその事業は多岐にわたる。

福祉関係ワーカーズ

38団体 2,250人

実行委員長挨拶



共同体 代表理事 田中 裕子さん

毎年この集會では、グリーンコープに関わるたくさんの人たちが参加し、グリーンコープの運動や事業を一日で感じることが出来ます。今年度で10回目となる今日の集會が、皆さんの心の中の玉手箱となり、また明日から元気に活動できることを願っています。

東日本大震災復興支援の取り組み



NPO法人シャローム（福島県）
大竹 愛希さん
川島 ゆかりさん

ひまわりプロジェクト報告

農産物産出による障がい者支援のため、ひまわり油の生産を計画していたが、震災後の原発事故の風評被害でひまわり栽培を断念せざるを得なくなった。県外の支援者からの提案で、全国の支援者が栽培したひまわりの種を送っていただいた。それを原料に純度100%のひまわり油を生産し、福島の障がい者施設や子どもたちのために役立てている。

全国の支援者との絆を大切に、合いのネットワークを広げていきたい。



共同購入ワーカーズ

12団体 784人

これからのグリーンコープを担っていく、共同購入ワーカーズが各単協に誕生している。（島根）・ふくおか・くまもと・おおいた・かしまに続き、2014年はさがとひろしまに誕生した。さかの「ASMA TE」は3月2日に設立し、現在20人で、どんな困難にも立ち向かうワーカーズとして、日々行動している。

ひろしまの「エバーグリーン」は7月19日に設立したばかり。手探り状態だが、りんご・みかんの早期予約の取り組みで目標を達成し喜び合った。



商品の配達をはじめとして総務・経理、組合員拡大までを主な業務として、それぞれが「自分たちで考えて行動し、自分たちで広げ、稼いでいく組織」と捉え、新しい働き方として主体的に取り組んでいる。

お店共同購入ワーカーズ

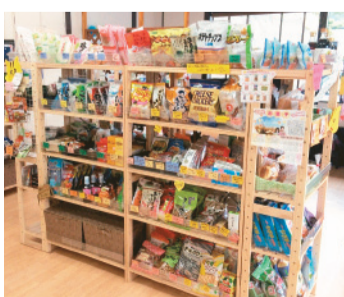
5団体 485人

キーフ&ショップワーカーズ

6団体 36人

キーフ&ショップのワーカーズは、ふくおか・さが（長崎）にある。商品の受け渡しだけでなく、加入の説明や試食会、クレーム対応なども行う。それぞれのショップではロスを出さないよう売れ筋を分析し、特長を出した品揃えに務めている。組合員の手作り品の展示や、地元の新鮮な無農薬野菜の販売などの工夫も喜ばれている。

毎週組合員に出会える場を生かし、商品の情報やグリーンコープの取り組みなどを直接伝えることにやりがいを感じている。



地域に求められる店になるように、夢を持って仲間と共に頑張っていく。

連合・共同体関係ワーカーズ

7団体 106人

現地からの報告

一般社団法人
コミュニティスペースうみねこ（宮城県）
代表 八木 純子さんのメッセージより

被災した高年齢者が手仕事で作っている。2014年7月「ゆめハウス」というカフェをオープン。布草履作りにとどまらず、女性の高齢者の食生活、地域の若者たちのゆめ創出事業として、仕事や販売場所の提供に取組んでいる。

グリーンコープの皆様には、被災後の物資の提供やボランティアの応援だけでなく、大きな心の支えをいただいている。震災の年、私たちが作り始めた布草履に多数の注文をいただいたことは、大きな力となり、やる気につながった。

さらなる支援でオープンできた「ゆめハウス」では、近郊の人たちの憩いの場にもなるよう食事の提供やワークショップを実施。高齢者の生きがいにもなり、多くの人の笑い声や歌が響く場所になっている。



2014年度グリーンコープ地域運動交流集会

地域に根ざし グリーンコ

会員生協報告

ふくおか



郵便局でのアピールの様子

地域に飛び出せ！グリーンコープ

グリーンコープを知ってもらい仲間を増やそうと、組合員、ワーカーズ、職員が一丸となり地域に出て行き、たくさんの人たちと出会っている。お店や共同購入以外のワーカーズもその一翼を担っている。テレビや新聞などのマスメディアを使ったキャンペーンを契機にして、郵便局や地域のイベントに出向き、グリーンコープをアピールしている。

組合員は一人ひとりが主体的に考え、公園で出会った人にサンプルやお菓子を渡したり、サンプル紹介チラシを常にバックに入れ、いつでもグリーンコープの良さを伝えようと仲間づくりに取り組んでいる。

まとめの挨拶

出会いを大切に、グリーンコープを伝えていこう!!



福祉ワーカーズ連合会 理事長 内村 紀子さん

今日は各地で頑張っているグリーンコープの仲間の報告を聞くことができ、明日からもまた頑張ろうという気持ちになりました。

日々グリーンコープの商品を使っていく小さな力が、生産者を支え、子どもたちの未来へとつながっていく大きな力になると信じています。グリーンコープの素敵なところをもっとたくさんの方に知ってもらい、仲間を迎えましょう。出会った方々を大切にしていけるグリーンコープの精神を、これからも皆で守り大切に育てていきましょう。



ある分校に通う子どもたちは、厳しい環境にありながらも熱心に勉強していた。

貧困や様々な問題を抱えながらも、助け合い懸命に生きていく人々に出会うことができました。

7月の第7回パキスタンへの衣類送り出しの着荷を確認し、パキスタンの現状や衣類の販売交渉を視察するため、8月、現地へ赴いた。

支援しているアル・カイルアカデミーでは、組合員へ呼びかけたカーンパにより購入した発電機が届き、稼働を見届けた。ゴミ処分場の中に

ファイバーリサイクル パキスタン視察報告

ファイバーリサイクル事業部
主任支援員 清水清子さん

生活困窮者自立支援の取り組み

生活再生相談が家計相談支援のモデルに

現在、「生活困窮者自立支援法」のモデル事業として、福岡県をはじめ、熊本県、大分県内の自治体から自立相談支援事業や家計相談支援事業をグリーンコープが受託している。その一つ、福岡県糟屋郡に開所した自立相談支援事務所「くらしの困りごと相談室」には、昨年12月の開所から、200人以上の方から相談が寄せられている。現在はモデル事業だが、2015年4月の法施行に向けて、家計相談支援事業が多く自治体で実施されるように働きかけ、グリーンコープとしても受注をめざしている。

家計相談支援事業は、グリーンコープの生活再生

生事業がモデルになっていて、相談者に寄り添いながら家計の課題解決に向けて共に考えてきた生活再生相談室での8年間の経験が活かされている。厚生労働省の委託で実施している家計相談支援員実践研修でも、生活再生ワーカーズ「ともに」のメンバーが講師として家計相談支援事業を全国に広げる一翼を担っている。

今回の法律は、私たちがこれまでの取り組みが、国の法律という「カタチ」になったもの。「住んでる街を住みたい街にするために大きな一歩が踏み出された。人と人が出会い助け合っている「共生」の社会づくりをこれからもすすめていきたい。



食育ワーカーズ

4団体 65人

ひろしま・おおいた・ふくおか・くまもととの4つのワーカーズが情報を共有しながら、食育の大切さを伝える取り組みや、子ども料理教室の担い手としてスキルアップを図っている。2014年度は協同で「キッズキッチンインストラクター地域養成講座」を開催。多くのワーカーが念願だったインストラクターの資格を取得した。今後も地域に向けて、子ども料理教室を広げていきたい。



今年5月リニューアルした、かごしま谷山店

くまもとの3店舗は来店増をめぐして「組合員訪問」に取り組んだ。会えた組合員が、翌日お店に来られることもあった。お店の利用者とワーカーという関係から、人と人とのつながりに変わっていくと実感している。

2014年度は、カタログ編集と商品を担当するワーカーズが立ち上がり、7団体となった。

「クオリティー」は、クレーム対応と組合員や単協から商品の質問を受ける業務を担う。4月に立ち上がった「あむ」は、カタログ編集業務を利用する組合員の視点を生かして試行錯誤しながら日々研鑽を積んでいる。「商品部労働協同組合準備会」は、商品管理などを職員と一緒に担いながら、商品開発にも取り組む。

「FP円縁」は、各種学習会や家計簿クラブ等への講師派遣を主として活動し、今年もふくおかの仲間づくりにも励んでいる。生活再生ワーカーズ「ともに」とともに、お金を振り回されない豊かな生活を送れるようなサポートに取り組んでいる。また、ITの側面から暮らしをサポートする「ITサポートワーカーズ」も活動の場を広げている。「連」は広報全般を担っている。

7月には連絡会を立ち上げた。今後は、各組織間の協同の取り組みや相互の関係強化を図っていきたい。



▲「霧島里山自然学校」での米作りのようす
子どもたちの中には最初に田んぼに入る時、服が汚れるのを嫌がったり、生き物がいるのを怖がったりして泣く子がいます。それでもこわごわ稲を植えていくと、その泣き声は笑い声に変わっていきます。笑い声はみんなに伝染して田んぼ中が笑い声に包まれます。そして、命あるものを作って食べる大切さを学んでいきます



2014年度 子育て応援学習会
グリーンコープ 共同体福祉委員会

子どもに何を伝えますか —— 食から子育てを考える ——

グリーンコープは2003年に「食べもの運動と子育て応援は一つのもの」として、子育て応援の取り組みを始めました。

共同体福祉委員会は、食を通して子育てを考え、今後の単協の取り組みに生かしていくことを目的に、2014年度の子育て応援学習会を9月22日福岡市で開催しました。
講演要旨を紹介します。



千葉 しのぶさん
NPO法人霧島食育研究会理事長。鹿児島県霧島市在住。病院の栄養士を経て、2004年、「霧島で霧島の食育」をすすめたいと考え、霧島食育研究会を設立。「霧島の高齢者を先生に、畑や田んぼを教室に、そこでできた米や大豆を教科書に」、食育で地域づくり、農業体験、「霧島の食の文化祭」など幅広く活躍

食事をつくること が大切

食育という言葉が使われ始めた10年前、いい言葉だと思っただけ、自分の言葉では食育を語れませんでした。同じ頃、霧島町（現霧島市）が12歳までの子どもを持つ家庭を対象にして、「あなたはこの飯を作るのが面倒だと思いませんか？」というアンケートをとりました。「面倒だ」というと答えが85%もいました。この深刻な現実、家庭や学校だけでなく「地域」でも食の大切さを伝えなければならぬと感じました。そして、霧島食育研究会を立ち上げました。

大学生を対象にした一日に食べたものについての、ある調査によると、パンやジュース、カップ入りの牛丼、ポテトフライなど、すべてコンビニで買ったもので済ませている学生がほとんどでした。私は地元の子もために高校を卒業するまでに、「ご飯を炊く。味噌汁を作る。野菜を炒める。

食について農業体験から考えてもらうために、「霧島里山自然学校」にも取り組んでいます。小学生までの子どもたちと一緒に、一年を通じて作物の栽培や調理、生き物の観察などを行います。その一つに、大豆作りがあります。畑を借りて地元の農家の方に教えてもらいながら大豆を育てます。「大豆を蒔いたのに、実がいたら枝豆だっただね」と、子どもたちは

驚きます。収穫した大豆から味噌や豆腐、納豆、きな粉を作ります。特に豆腐を作る時は、硬い大豆が豆乳になって、にがりを加えると固まり始める、その劇的な変化に子どもたちは感動します。スーパーの安売り商品だと思っていた豆腐が、自分で作ってみたら「豆腐ってごちそうなんだね」と言う子どもたちもいます。子どもたちにはこの先豆腐を食べる時に、自分が作った豆腐、そして豆腐を作るために作った大豆、汗を流して草取りをした時のことを思い出してほしいと思います。そして、親になった時、「食べるものは大切だよ」と自分の子どもに伝えることができる大人になってほしいと思っています。

子どもが「今日のご飯は何？」と家に帰ってくる日常の光景が、究極の子育てだと思つています。お母さんのあの料理が食べたと思うこと、その料理を見れば思い出す温かい食の記憶があることが、子どもの心をつくります。

悲しくなったり本当にでも、子どもの前で「ご飯を作るのは面倒くさい」とは言わないでください。ご飯と味噌汁だけでも、一緒においしく食べればいいのです。子どもにとつて、親が自分のためにご飯を作ってくれたのは、簡単な食事でもとてもうれしいことなのです。「ご飯を作るのは面倒くさい」と言われた子どもは、「本当は私を育てるのも面倒だと思つているんじゃないの？」と思うかもしれません。自分が手をかけて育てられたと感じる子どもは、自分を大切に、つらい時でも自分のやりたいことをあきらめずやり遂げることができると思っています。

子どもたちの未来のために No.75

原発はなくても困らない

いまだに事故処理の目処がたない東京電力福島第一原子力発電所。日本は30年以内に70%の確率で巨大地震が起こるといわれている地震大国でありながら、世界の原発の平均寿命といわれる22年を過ぎた古い原発も再稼働をすすめている。原発がないと困るといわれますが本当にそうなのでしょうか。

現在、日本の原発はすべて止まっていますが、生活するのに必要な発電量は確保できています。現代の科学技術による再生可能エネルギーの利用可能量は、世界で使われているエネルギー量の16~17倍にもなります。日本には再生可能エネルギー資源が豊富にあります。再生可能エネルギー比率は主要先進国のなかで最下位です。全国で風力発電の潜在力をフルに活かせば、100万kWの原発500基分の電力があるといわれています。半永久的に利用可能でリスクの少ない再生可能エネルギーでの発電に移行し、節電を心がけ、子どもたちに安心できる未来を手渡すために脱原発の取り組みをすすみましょう。

参考文献：市民・地域主導の再生可能エネルギー普及戦略 和田 武 著
1億3000万人の自然エネルギー 飯田 哲也 著

グリーンコープ 共同体組織委員会

グリーンコープ・グリーン電力出資金
7,351人 804,114,000円 (2014年9月27日現在)
自然エネルギーによる市民発電所をさらにひろげていくためにグリーンコープ・グリーン電力出資金に協力しましょう

神在太陽光発電所売電量
2014年9月 114,000kWh 定格出力1.057kW(280世帯相当)
2014年4月からの累計は725,790kWh

若宮物流センター太陽光発電所売電量
2014年9月 5,055kWh 定格出力47kW(13世帯相当)
2014年4月からの累計は29,981kWh

広島物流センター太陽光発電所売電量
2014年9月 5,686kWh 定格出力47kW(13世帯相当)
2014年5月からの累計は24,234kWh

グリーンコープやまぐち生協西部地域本部太陽光発電所売電量
2014年9月 6,291kWh 定格出力54kW(15世帯相当)
2014年9月からの累計は6,291kWh

一般社団法人グリーン・市民電力から
ひろがれ! 私たちの発電所

グリーンコープ生協みやざきエリアの東諸がた 県郡国富町大字深年字白山田に、2基目のグリーンコープの市民発電所を建設することになりました。名称は「深年太陽光発電所」(定格出力1.5メガ)。2015年5月の着工、2016年2月の売電開始を予定しています。

また、グリーンコープやまぐち生協とグリーンコープ生協くまもとで自然エネルギーによる発電所の建設に向けた具体的な検討がすすめられています。



農の力で人がつながり

地域再生をめざす



この日の農作業に集まったメンバー。前列左から3番目が代表の樋口さん、後列左から2番目が山下さん。山下さんは、グリーンコープのお店に野菜を納める生産者でもある

いちのたんぼの会 代表

樋口 茂敏さん

プロフィール

福岡県大牟田市在住。38年間、高校の教員として化学などを教える。現在は農業や環境、原発問題など幅広く地域で活動。妻、二男家族と共に暮らす。グリーンコープ生協ふくおか組合員

大牟田市櫛野の山裾に広がる静かな田畑。毎週水曜日と土曜日の午前中、「いちのたんぼの会（以下、たんぼの会）」のメンバーがここに集う。会員は現在約30人。毎回10人ほどが農作業に参加する。樋口さんは2003年の立ち上げから、その代表を務めている。

子どもたちに教えられた農業の力

樋口さんが大学の工学部に入学したのは1960年代半ば。日本は高度経済成長期の真只中で、石油化学コンビナートなど大型工場が次々と建設されていた。が同時に、公害問題など産業の発展に伴う矛盾が明らかになり始めた頃でもあった。在学中に学生運動にも少しかわり、樋口さんは工業中心の社会に疑問を感じるようになる。同級生が皆企業に就職する中、教師の道を選んだのは樋口さんただ一人だった。

の生徒たちと野菜を育て始める。「土を耕し作物をつくることは心の健康に大きくかわると、その後赴任した農業高校でさらに強く実感しました。と同時に、これからの社会は工業ではなく農業が基本となるべきだ」という思いが膨らんでいった。

山下さんとの出会い

2002年、樋口さんは農業高校で教鞭をとる傍ら、炭鉱閉山で灯が消えたように勢いを失っていった大牟田の街を何とかしたいと、仲間と共に考えていた。定期的に学習会を開く中で出会ったのが、有機農業に取り組みする山下公一さんだった。

「消費者と共に米づくりにしたい」。学習会の講師として熱く語りかける山下さんの言葉に、樋口さんは迷わず「一緒にやりましょう」と声をかけた。二人はたちまち意気投合。せっかく一緒に取り組むのだからと、除草剤などまったく使わない完全無農薬栽培を決意した。「それがたんぼの会の始まりでした」。

消費者と生産者がひとつになって

早速10人ほどが集まり、翌年には山下さん所

投稿欄



私の好きなグリーンコープ商品

米のやさしい甘みがある ホワイトソフトマーガリン

ほんのり甘くてやさしい味わい…パンにつけてはもちろんです。グラタン等にもおいしい！以前友達にも、グラタンがすごくやさしい味でおいしいね！とほめてもらいました。パン作りにも使えるし、バターの代わりに料理にも使っています。

友達に加入をすすめる時は「ホワイトソフトマーガリン」おしです。子ども達もマーガリンは白いものだとおもっているの、他のマーガリンだと少しとまどうようです。きらしてしまった時は似たような商品を探してみるのですが…めぐりあえません。

グリーンコープ生協おかやま 青木 望

投稿募集中

私の好きなグリーンコープ商品

●250字程度
●毎月月末
●住所氏名年齢TEL所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。
●掲載分にはグリーン券(グリーンコープ商品の購入に利用できます)500円分を進呈。
●住所氏名などの組合員の個人情報には本紙に掲載の場合のみ使用します。
福岡市博多区博多駅前1丁目5-11
ヒューリック博多ビル3F
グリーンコープコミュニケーション
フカス連(REN)「共生の時代」
編集部宛
FAX 092-1481-17876
Eメールアドレス
niko@greencorp.or.jp



作業の合間に、持ち寄ったお菓子や漬物でひと休み

保育所の園児たちが体験に訪れる。様々なつながりを通して、たんぼの会のメンバーは増えている。おいしい野菜を自分だけで食べるのはもったいないと自宅週一回の八百屋を開く人、子育てサークルを主宰して若いお母さんたちに野菜のおいしさを広める人、住民と連携して地域を活性化したいと考える市の職員グループなど、個性豊かなメンバーが集まる。より多くの人と取り組みを共有しようと、交流会や学習会も広く呼びかけている。

大切な人のためにできる限りのことを

2011年3月、東日本大震災に伴って起きた原発事故に、樋口さんは大きな衝撃を受けた。丹精込めて育てた作物も先祖代々の田畑も放射能汚染で全て失い、生きがいさえも奪われたある被災

農家の存在を知り、「いかに無念だったか、彼の心情を思うと居ても立ってもいられなくなりました」。まずは原発について知ることから始めようと仲間を声をかけ、専門家を招いて講演会を開いた。その後も講座を継続して学ぶ中、被災地の人たちとの交流も生まれ、福島の子どもたちに無農薬野菜を届ける活動も始めた。

たんぼの会がスタートした年に生まれた孫娘は今日歳。幼い頃は毎回のようにならぬ農作業について来た。今も田植えや稲刈りには参加する。これから彼女が生きていく時代が平和であることを、樋口さんは何よりも願っている。「そのために自分ができることは何でもやっつけていきたい。『じいちゃんは何をしていいの？』と言われないようにしなくちゃ」。おだやかな微笑の奥に固い決意がうかがえた。

醤油



醤油は、私たちの食生活に欠かせない基礎調味料です。だからこそグリーンコープは、その原料や製造方法にこだわってきました。原料は国産丸大豆。麹を仕込んでじっくり時間をかけて熟成・発酵させる昔ながらの本醸造だから、醤油本来の味・色・香りが生きています。

原料は国産の丸大豆と小麦です

大豆の自給率がわずか8%という中、グリーンコープは国産の丸大豆にこだわりました。

化学調味料や合成保存料、合成甘味料などは一切使っていません。良質の丸大豆・小麦を原料に約1年～1年半じっくりと熟成させることで、醤油本来の旨みと豊かな深い香りが生まれます。

脱脂大豆は使わない

醤油に油分は不要です。そのため原料の大豆は、大豆を搾ったあとの脱脂大豆を使うのが一般的です。しかし脱脂大豆では遺伝子組み換えしたもの、していないものを分別するのが、丸大豆以上に難しい面があります。グリーンコープでは、遺伝子組み換えが問題になった1996年には遺伝子組み換えでない丸大豆を使うことを決め、さらに2008年製造分からすべて国産丸大豆に切り替えました。

本醸造醤油です

伝統的な製造方法は、蒸した大豆と炒った小麦をほぼ等量混ぜ合わせ、そこに種麹を加えて「麹」を作ります。これを食塩水と一緒にタンクに仕込



木桶での醸造 クルメキッコー(株) もろみを攪拌し均一に空気を入れ、菌の活動を活発にする

福岡の郷土料理「がめ煮」など、煮物料理に良質の醤油は欠かせません

こいくち国産丸大豆醤油(ちくご)

クルメキッコー(株)

1874年の創業以来、ずっと杉の木桶を使用。蔵や木桶に棲みついている酵母や乳酸菌などの微生物の力で、自然のままに約1年熟成発酵させ製造する本醸造醤油です。塩分約16%。



こいくち国産丸大豆醤油(丸秀)

丸秀醤油(株)

国産の減農薬丸大豆と米、佐賀県産の小麦、海水塩(なぎさ)を使用し、本醸造により約1年半かけて発酵熟成させました。長期熟成ならではの約300種類にもなる香り成分が生まれ、もろみの中に旨みが蓄えられます。熟成の最終段階に米麹を加え、まろやかに仕上げています。塩分約15%。



お好みの醤油

あまくち国産丸大豆醤油(松合)

松合食品(株)

1年以上熟成した本醸造醤油。塩分を約15%にし、糖分(粗製糖)を5%加えることで九州で好まれる甘口に仕上がりました。刺身やかけ醤油、煮物など様々な料理に使えます。



こいくち国産丸大豆醤油(ひしお)

チョーコー醤油(株)

九州ならではの甘み嗜好も意識して、大豆よりも小麦を多くすることで、小麦のたんぱくから生まれる甘みを重視した仕上がりです。芳醇な香りに、丸大豆特有のほのかな甘みを醸しだしています。熟成期間は約1年の本醸造醤油。塩分約16%。



豆知識

おいしさを作り出す微生物(麹・乳酸菌・酵母)

麹菌はいろいろな酵素を作りだし、原料である大豆のたんぱく質をペプチドやアミノ酸に分解、小麦に由来するでんぷんをブドウ糖に分解します。こうして作られた基本的な成分を乳酸や酢酸などの別の成分に変えるのが乳酸菌。醤油の味に深みを与えます。酵母は、糖分やアミノ酸からアルコールやいろいろな香り成分を作り、醤油独特の豊かな深い香りが生まれます。

2014年9月の組合員数 384839人 (9/20現在)

リユース、リサイクルデータ

2014年8月分 (回収率)

トレー 回収率 45.7%	牛乳びん 回収率 99.0%
モールドパック 回収率 71.8%	リユースびん 回収率 60.5%

☆仕分け袋の回収率は11.0%
日本では数少ない袋から袋へのリサイクルです。



ラベルを切り取り、ゴミや汚れを落として出してください。

フードマイレージ

2014年9月に組合員の利用によってたまったのは

6,549,346.6 CO₂に換算して655トン削減したことになります

2009年9月からの累計は、342,554,870.4ポコ

アジア民衆基金

2014年9月に組合員の利用によってたまったのは

607,028円

2009年4月からの累計は38,732,525円

※下記一覧表の結果の「検出せず」は、検出限界値を超えての検出はなかったことを表しています。

Table with columns: 番号, 商品分類, 商品名, 原料産地, 製造地, 製造日・収穫日等, 測定日, 検査法 (Ge/NaI), ヨウ素-131 (結果, 検出限界値), セシウム-134 (結果, 検出限界値), セシウム-137 (結果, 検出限界値). Rows contain detailed inspection data for various food products.

※下記一覧表の結果の「検出せず」は、検出限界値を超えての検出はなかったことを表しています。

Table with columns: 番号, 商品分類, 商品名, 原料産地, 製造地, 製造日・収穫日等, 測定日, 検査法, 検査結果 (ヨウ素-131, セシウム-134, セシウム-137).

検査結果については、ホームページでも週に一度のペースでお知らせします。表記についてもホームページと同様にしています

●放射性セシウムの基準値について

2012年4月からの国の基準は、一般食品100ベクレル/kg、乳児用食品・牛乳50ベクレル/kg、飲料水10ベクレル/kg以下です。

●グリーンコープでの放射能検査内容と報告について

検査対象 グリーンコープでは、商品や原料について放射能汚染が心配される地域は関東から東北地方が中心であるものの、必ずしもエリアを限定して考えるべきではないという判断で、また利用される組合員の心配に対応するためにも検査対象を全国に広げています。

検査対象 2011年3月11日以降に、生産・製造・保管されていた商品及び原料を順次検査しています。定期的なサイクルで検査を行えるよう年間計画を立てて検査します。

検査機関

2011年10月よりグリーンコープ放射能測定室(福岡市)で検査を開始しました。ただし、グリーンコープ放射能測定室で検査可能な品目数を超えた場合などは、これまでと同様に外部機関に検査を委託することもあります。

検査日

検体を測定した日を入力しています。ヨウ素131とセシウム134、セシウム137の3種類について結果をお知らせします。検出限界値未満の結果については「検出せず(検出限界値未満)」と表記します。

検査結果の表記

※検出限界値未満とは、放射能は0ではなく、放射能は存在する可能性があるということです。厚生労働省から2011年9月29日付けで、検出限界値未満の結果については、測定によって得られた検出限界値を表示するよう通知が出されており、国や自治体から公表される検査結果には、「不検出」や「検出せず」ではなく、検出限界値が表示されるようになりました。